

令和3年度第1回倉敷市地域包括支援センター運営協議会議事要旨

1 会議名

令和3年度第1回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

2 開催日時

令和3年10月19日(火) 13:30～14:30

3 開催場所

倉敷市役所本庁舎厚生棟2階207会議室

4 出席者

(1) 委員(16名)

石崎 英子 (倉敷市老人クラブ連合会)
猪木 真弓 (岡山県介護支援専門員協会倉敷支部)
今井 博之 (倉敷市連合医師会)
内田 修子 (倉敷ねたきり・認知症家族の会)
大久保 ますみ (岡山県看護協会倉敷支部)
岡本 育子 (倉敷市愛育委員会連合会)
岡本 武義 (倉敷市民生委員児童委員協議会)
川上 富雄 (岡山県社会福祉士会)
佐藤 壽子 (倉敷市栄養改善協議会)
清水 加奈子 (岡山弁護士会)
白神 佳樹 (倉敷市内歯科医師会協議会)
田口 明子 (倉敷市議会保健福祉委員会)
田野 広子 (岡山県備中県民局健康福祉部)
津田 由起子 (倉敷市介護保険事業者等連絡協議会)
中上 由美子 (倉敷市社会福祉協議会)
松村 隆司 (岡山県薬剤師会倉敷支部)

(2) 事務局(10名)

渡邊 浩 (保健福祉局 参与)
林 徹 (健康福祉部 参事)
吉田 猛 (健康長寿課 課長代理)
檜垣 みちよ (地域包括ケア推進室 室長)
笠原 布枝 (介護保険課 課長補佐)
井上 伸二 (福祉援護課 主幹)
高橋 祥子 (地域包括ケア推進室 主幹)
本山 和人 (" 副主任)

小幡 俊輔 (" 副主任)
岡部 雅恵 (" 会計年度職員)

5 議題

- (1) 令和2年度高齢者支援センターの事業報告について
- (2) 令和2年度高齢者支援センターの事業評価について
- (3) その他

6 傍聴者の数

無し

7 審議内容

1) 開会

2) あいさつ

渡邊保健福祉局参与が開会挨拶

3) 自己紹介

委員自己紹介

事務局紹介

4) 議事

- (1) 令和2年度高齢者支援センターの事業報告について
事務局より説明。質疑応答はなし。

- (2) 令和2年度高齢者支援センターの事業評価について
事務局より説明。質疑応答はなし。

(3) その他

別紙「介護予防ケアマネジメント・介護予防支援業務における特定事業所が提供するサービスの偏りについて（船穂高齢者支援センター）」
事務局より説明。質疑応答はなし。

会 長：それでは、船穂高齢者支援センターの特定事業所が提供するサービスの偏りについて承認ということによろしいか。

(各委員) 承認

会 長：その他、意見等はあるか。

委員 A：6 ページの高齢者虐待状況の相談対応件数について、令和元年度に比べると令和 2 年度は減っている。令和元年度 9 2 7 件が、令和 2 年度には 7 5 2 件となっている。一般的には、コロナの影響を受けて、家庭内での暴力というのは、密室で行われるため、危険性が高まっていると言われている。相談件数が減っているということは、かえって注意しなければならないと感じた。コロナ禍で集まる機会が減っているため、虐待ではないかと疑う機会が減っているということではないかと思う。今後、集まったりする機会は貴重な機会であるので、その機会を有効活用し、見逃さないようにするという、専門職の意識が必要という点と、後追いのフォローが、必要ではないかと思った。

会 長：内容的には一見減っているが、虐待案件が隠れているのではないかと。非常に重要な事だと思う。これについて、事務局から意見はあるか。

事務局：私どももこのあたりは大変危惧しているところである。今日の報告にもあった、実態把握事業について、今までは自宅に伺って相談を受けていたが、コロナ禍で訪問が難しい中で、何もしないのではなく、できることをしていこうと、令和 2 年度後半から電話による実態把握調査を開始した。電話でもキャッチするようにし、実態把握調査件数そのものは、大きく減少してはいないが、現場に行ってみて、察知するということが虐待に関しては難しかったのではないかと。電話では出来なかったのではないかと、今回の結果を重く受け止めている。環境を整えば是非、現場を見て、アプローチしていくことが大切と思っている。感染対策をしたうえで、できるだけお会いできる機会を増やしていきたい。

会 長：コロナ禍ではあるが、実際に顔を合わせて感じることは違うと思う。虐待に関して電話では相談しにくいということはあると思う。是非、できるだけ積極的に取り組んで突っ込んでやっていただかなければならないと感じている。他に何かあるか。

委員 B：1 6 ページの地域包括支援センター職員確保支援事業について参考に伺いたい。

このような活動をして職員の確保につながった例があるか。また、活動実績の（3）実習生の受け入れがあるが、今年度も受け入れはあるか。こういう事業をされる経緯といったものがあれば教えていただきたい。

事務局：この活動をする中で、実際に職員の確保につながった例があるかというご質問については、活動実績の（3）実習生の受け入れの報告にあるように、船穂高齢者支援センターで実習した学生が、保健師として、入職したと聞いている。

現在、川崎医療福祉大学や岡山県立大学で講義をさせてもらっているが、対象は大学 1・2 年生で、これから専門分野を学ぶ段階で高齢者支援センターを周知する内容としている。倉敷市では、高齢者支援センターを民間に委託していることから、法人に入職して配属先が高齢者支援センターになるということがあるため、高齢者支援センターの社会福祉士になりたいという就職試験は難しいかもしれないが、経験を積んで内部異動という機会を担

ってもらえればというところ。高齢者支援センター自体を知ってもらうという趣旨で学生向けの授業をさせてもらっている。

令和3年度についても、現状では実習生の受け入れが難しい状況ではあるが、庄北・船穂高齢者支援センターは、社会福祉士・保健師の実習を受け入れている。受け入れる側としては、無理のない範囲で高齢者支援センターの職種部会への同行など、現場で働く職員との情報交換などを通じて、学生の貴重な時間になればと継続しているところである。

会 長：実習生の受け入れで、船穂高齢者支援センターで8名というのは、既に倉敷市に勤務している保健師ではないということか。学生ということか。

事務局：学生である。

会 長：保健師になる学生ということ。他に意見等はあるか。

(各委員) 意見なし

5) 閉会挨拶

林健康福祉部参事が閉会挨拶